No.18

岐阜大学教育学部
同窓会報
2012

母校の発展は自尊感情の高揚

同窓会長　江端　雅司
昭和 37 年度 史学科卒業

『メタセコイアは残った！』

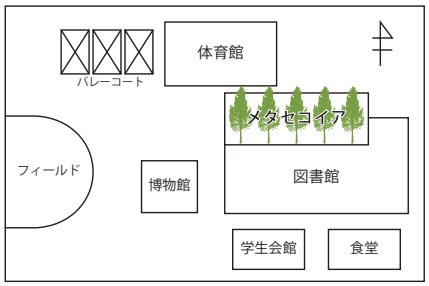
教育学部130周年記念「跡地碑」のある長良公園は、岐阜市でも有数の公園で、一周600メートルのウオーキングコースがあり、多くの方々が汗を流しています。北の端には100台置ける駐車場があり、そこに円錐状のメタセコイアが林立しています。そのベンチで、新聞を読む人、昼寝をする人、弁当を食べる人、遠くの木々を見つめている人等々。静かな雰囲気のなか、爽やかな風が通りすぎていきます。９月15日には、県立長良高等学校の吹奏楽部・コーラス部がこの「メタセコイアの森」でコンサートを開かれました。

昨年、この公園で、散策している人から「あそこに聳える木は昔からありましたよ」と言われました。初めはポプラの木かと思いましたが、公園内にある管理事務所で聞きますと、「メタセコイアや楠は伐採されずに、そのまま残された」と言われました。さらに、メタセコイアは“生きた化石”といわれる貴重な樹木であったことも分かりました。当時の関係当局の方々の“叡智”に深く感動を覚えました。

【天を突くメタセコイア】

「岐阜大学の50年」の記念誌の中の「附属図書館」コーナーに、『昭和37年以後の長良分館』として、新たにできた学芸学部の図書館とメタセコイアの木々が写真に収まっています。昭和37年９月上旬前後オープンされた頃、偶然「新図書館」へ行きました。余談ですが、当時、私は恥ずかしながら卒論のことで、さまよっていました…。入館していたのは私ひとりであったことをこの写真を見て思いだしました。“学生で最初に入館したのは私だ”と、苦しい思いの時でしたが、希望というか、何か誇りみたいなものを感じたことを覚えています。これらのメタセコイアがいつ植えられたのかは不明です。ひょっとしますと、新しい図書館建設（昭和37年）時かも知れません。

【新しい図書館とメタセコイア】



【長良キャンパス　概略図（一部）昭和40年の配置図より】

“年年歳歳　花相似たり　歳歳年年　人同じからず”

メタセコイアは、長良キャンパスの取り壊しや中部未来博覧会の駐車場、東長良中学校の校舎建築やこの長良公園を見つめ、人々の往来を観つめてきました。

この公園内にある公園平面図には、「メタセコイアの森」の名称がありません。そこで、管理事務所の所長さんにお願いしましたら、「書き替える時には、記載するようにします」と、快い返事をいただきました。

柳戸で卒業された昭和58年度以降の同窓会会員の方々には、「温故知新」の精神で、一読くだされば と思います。

学舎等思い浮かべて、ウオーキングするのも良し、天を突くメタセコイアを見るのも良し、跡地碑を見るのも良し、緑溢れる公園に是非、立ち寄ってくだされば と思います。

トピックス

(1) 教育学部長等との懇談会

8月7日、早川学部長、原田副学部長、矢橋教学委員長と、同窓会から後藤副会長、村瀬副会長、田口総務部副部会長、加藤組織部会長、辻広報部会長、興戸組織部部員、野村事務局員と私とが一堂に会して話し合いをもちました。主に話題になったこと、

○ この2年間で、国立大学を取り巻く状況は急速に変化する。それは国立大学改革を進めるという指針が出されたためである。

この改革を推進すべく、今年度中にミッション（設置目的）を再定義する動きもある。報道では、一法人一大学から一法人複数大学を運営する「アンブレラ（こうもり傘）方式」の検討も伝えられており、地域に根ざす教育についての影響も懸念される。しかし、岐阜大学教育学部では、師範学校以来の伝統と実績を十分に踏まえて、地域に根ざす教育を再確認しており、心配はないだろう。いずれにしても、具体的な話にはなっていない。

○ 中央教育審議会大学分科会では、「学士課程教育」としての大学教育の質的転換を答申している。大学生は勉強する時間が少ないと報道されているが、主体的に学ぶ学士像を問い直している。

学士力とは、小中学校で生きる力の育成を図っているように、大学生も基本的には同じ力の育成と捉えている。知識を生み出す力は何か？卒業して教員になっていく学士に真につけたい力を描き、その方策を模索している。

○ 岐阜大学のホームページを見ると、「教育の基本戦略」「研究基本戦略」「運営基本戦略」（以下略）が掲げられている。

評価を運営に生かすということで、教員は年度計画を100項目以上提出することや6年ごとの中期計画・目標を掲げ、どこまで達成できたか承認を得るシステムになっている。

○ 学芸学部になって以来、「小一中一両免」取得できるのは、有り難い。今後もこのシステムを存続してほしい。

大学の先生方は卒業するまでの学生に、如何に学士力を身につけさせるかを大所高所から考えてみえることや理学部出身と教育学部出身で教員になってから何が違ってくるのか、さらに「教科教育とは何か」等、私は考えもしなかったことをお聴きでき、いろいろ学ぶことが多い懇談会でした。

(2) 岐阜大学愛唱歌

岐阜大学前身の旧制岐阜高等農林学校校歌が、「愛唱歌」となり、この春の入学式や教育学部の評議会にも紹介され、披露されました。

格調高く、しかも歌いやすい愛唱歌です。

♪　我等多望の春にして　♪

鈴木栄太郎　作詞
岡野　貞一　作曲

1 我等多望の春にして　この学園に師を得たり
我等が行く手の　幸（さち）を知るや
我等が行く手の　誉（ほまれ）知るや
静かに強く　準備（そなえ）せん

（2、3は略）

(3) 財団法人岐阜県教職員互助会から、教育文化助成金を受領

平成24年9月25日、ホテルグランヴェール岐山において、当互助会の理事長柘植良雄様より、ご寄贈いただきました。この多額な助成金は実践研究論文の研究者の顕彰に充てさせていただきます。

終わりに

本会の発展のために、教育学部長様をはじめ、教職員各位、とりわけ同窓会員で本学部在籍の先生方が中心となって運営していただいています。また、それぞれの場で、直接・間接にご尽力賜っております多くの皆様に深く感謝申し上げます。

終わりになりましたが、会員の皆様方のご健闘を祈念し本会のさらなる発展を願ってご挨拶といたします。

＜参考文献＞
○ 岐阜大学開学五十周年記念誌発行等事業専門委員会，「岐阜大学の五十年」，1999年
○ 昭和55年10月10日の「立木竹」（キャンパスの樹木調）
○ 中日新聞「長良公園のメタセコイア」平成23年2月13日

同窓会の皆様へ

教育学部長　早川　万年

平成24年４月から、教育学部長の職を勤めることになりました早川万年です。同窓会の皆様には、かねてより本学部の発展に多大なご支援をいただいておりますこと、心から御礼申し上げます。また、３万人の同窓会の皆様が、各方面でご活躍なさっていることに深く敬意を表するとともに、今後のいっそうの発展をお祈り申し上げます。

さて、新制大学が誕生してから、60年を超え、大学を取り巻く状況も、教員養成をめぐる事態もあらたな段階を迎えようとしています。わたくしが本稿を執筆しております平成24年８月の段階では、政府が「国立大学改革」をつよく打ち出し、なかでも教員養成学部の「改革」が優先されていることが知られております。今後、どのような変化が生じるのか、国の財政問題が前提とされるだけに、期待よりも不安が小さくありません。また、８月28日には、教員の資質向上に関する中教審の部会答申が出され、現職教員に対する研修、教員免許制度の改革の方向性が示されています。今後、これらがどのように具体化されていくのかまだ判然としませんが、マスコミの報道のなかには、教員免許を６年課程で出すようになるとか、さらに大きな問題として、国立大学法人の経営形態が変わるのではないかという記事も見られます。ときおり卒業生の方にお会いすると、これから岐阜大学教育学部はどうなるのですか、どこかの大学といっしょになるのですか、と聞かれることもあります。

たしかに国立大学法人として、国からの交付金に相当程度、依存している事実がありますから、行政・財政上の政策の一環として、国立大学の組織に変更が生じる可能性はあります。とはいえ、それは法律の改正を必要とする場合もあれば、行政側の働きかけや大学の自主的な判断で「変更」が起こる場合もあり、現段階では、何もはっきりしたことは見えていないと言ってよいと思います。

重要なことは、岐阜大学教育学部として、現状をどのように踏まえ、今後の方向性をどのように考えていくかということです。

かつての師範学校以来、わたくしどもの組織、そして卒業生は、地域の学校教育の根幹を支え、じつに夥しい数の児童・生徒の育成に尽力してきたことは言うまでもありません。それは、たんに学校教育の分野にとどまらず、地域社会の振興、文化の向上にも大きな貢献を果たしてきたと申せましょう。同窓会の皆様方の献身的な努力こそ、われわれの歩んだ道のりにほかなりません。わたくしどもは、こうした岐阜大学教育学部の歴史を尊び、その実績の上に将来の展望を切り開いていくつもりです。

もちろん、諸般の社会情勢の変化は、着実な実績を挙げてきた組織にも影響を及ぼす可能性があります。また、現在の岐阜大学教育学部に何の問題点もないかというと、そういうわけではありません。その点では、近い将来、何らかの組織変更が生じるかもしれません。それは本年度の認可を予定している大学院教育学研究科の改組（総合教科教育専攻の設置）といった次元を超える可能性も否定できません。ですが、あくまでも地域の教育の根幹をになう組織として、本学部の伝統を受け継ぐ体制が持続されなくてはならないとわたくしは思っています。

さて、同窓会のみなさんは、卒業された岐阜大学教育学部（学芸学部・師範学校等）のことを、今どのように想起なさいますでしょうか。大学時代の思い出は、小学校や中学校の思い出とは異質なものかと思います。もちろん、小学校は小学校なりに、子供時代の記憶と密接でしょうし、中学校や高等学校は、部活や友人のことなど、さまざまな思い出に包まれていることと存じます。大学の場合も、あるいは楽しかったことばかりでなく、悲しみや悔しさといった

感情がともなうこともあるかもしれません。そこで、思い出される「大学」とはいったいどのようなものでしょうか。教育課程や授業内容も記憶の一環でしょうけれど、やはり、大学で出会った教師や友人たちのことが思い出の核心ではないでしょうか。そのような「記憶」を、みなさんとともに、今改めて噛みしめてみたいと思います。

私事ですが、数年前に、わたくしは大学時代にお世話になった先生の米寿の記念会に参加したことがありました。そのとき、会場に入ってこられた先生を拝見し、また、相変わらずお元気な先生のお話をうかがい、今更ながら、自分がこの先生の授業を受けたことを懐かしく、そしてうれしく思い起こしました。それはただ懐かしいといった感情だけでなく、その先生の謦咳に接したことへの誇りといった気持ちをともなっていました。やはりわたくしの場合、大学時代の経験は、今の自分にとって、心の財産とも言える、大切な支柱になっているように感じます。学んだ知識といった次元を越えて、そのときの体験や経験がその後の自分にとって大きな意味があったと思います。このような感慨は、あるいは自分が若かりし頃への懐旧にすぎないのかもしれません。ですが、やはり、学びの場にいた自分が記憶のなかに確実に存在し、そこで接した教師を思い起こすことができるのは幸せ以外の何ものでもありません。

学校は、大学も含めて学びの場ですから、そこで何を身につけたか、知識や思考力・判断力が問われるのは、いわば当然のことです。けれども、相応の時間を経て人生を振り返ってみたときに、真に思い起こされるものは、教師の温顔や、友人たちとの談笑ではないでしょうか。学びの場のなかで本当に大切なものは、さまざまな「人」と出会い、そこで接したさまざまな言葉や振る舞いを通じ、自らの人格を形成し、自立を果たしていくことに他なりません。

わたくしは、岐阜大学教育学部という学びの場が、目前の若者たちの将来にわたって、大切な心の財産であり続けてほしいと切に願っております。そしてそのような大学・大学院にしていくことこそ、わたくしどもの真の役割であると思っています。

現在の岐阜大学教育学部の学生定員は250名。うち230名が学校教育教員養成課程、20名が特別支援学校教員養成課程です。大学院教育学研究科は教科教育専攻（定員30）、教職実践開発専攻（教職大学院）定員20、カリキュラム開発専攻（定員10）、心理発達支援専攻（定員9）です。学部・研究科の教員およそ100名が、日夜、学生の指導にあたっています。本年度の大学院改組が予定通り行われると、入学定員69は変更しないまま、カリキュラム開発専攻と教科教育専攻が統合し、総合教科教育専攻（定員38）となります。

教職大学院は全国の国公私立の大学院のうち、25の大学院に設置されていますが、今後の学校教員養成は、この教職大学院というあり方が主要な方向性を示すことになると思います。本学の教職大学院は、昨年度の認証評価（外部機関による評価）で、県教委との連携等、きわめて大きな成果をあげているむね、指摘されました。東海地域には愛教大と岐阜大にしか教職大学院は存在しません。このことからも明らかなように、今後も、岐阜大学教育学部、教育学研究科は、地域に立脚した教員養成の軸として、大きな責任を担うことになります。また、たんに教員養成にとどまらず、教員免許更新講習をはじめとする現職教員の研修事業への関わり、さらには自治体等の社会教育、文化行政への協力など、今後もさまざまな方面で本学部が果たすべき役割は大きくなると思われます。

どうか同窓会の皆様も、このような本学の現況をご理解いただき、今後とも、多方面にわたり、ご協力賜りますよう心からお願い申し上げます。

平成 24 年度　岐阜大学教育学部同窓会役員

■会長

江端　雅司　(S37 史学)

■副会長

後藤　忠喜　(S38 数学)
西村　覺良　(S39 史学)
中村　美幸　(S40 英語)
村瀬康一郎　(S53 数学)

■幹事（◎部会長　○副会長）

総務部会（担当副会長　村瀬康一郎）
◎ 村瀬康一郎　(S53 数学)
○ 田口　勝行　(S40 体育)
吉田芙美子　(S41 英語)
山本　　譲　(S48 法経)
後藤　信義　(S47 英語)
棚橋　　弘　(S48 音楽)

組織部会（担当副会長　西村　覺良）
◎ 加藤　直樹　(S54 物理)
○ 松岡　　博　(S43 物理)
安田　重彦　(S43 数学)
国枝　俊介　(S44 美術)
興戸　律子　(S54 数学)

事業部会（担当副会長　後藤　忠喜）
◎ 田口　和男　(S43 生物)
○ 高田　哲夫　(S41 数学)
小森　正子　(S41 家政)
浅野　佳正　(S46 数学)
吉田　政直　(S47 体育)

広報部会（担当副会長　中村　美幸）
◎ 辻　　泰秀　(S55 美術)
○ 大塚　頼明　(S43 国語)
小牧　　壽　(S45 地理)
髙橋　忠明　(S48 技術)
今井　亜湖　(H10 技術)

監査
野村　武宏　(S39 物理)
古田　　保　(S42 数学)
川瀬　喜生　(S45 数学)

評　議　員

大学系		
国文	藤根　　隆	S63
	村山　邦博	S63
	吉永　康昭	H5
	富山　哲成	H8
	吉田　雪絵	H8
史学	西村　覺良	S39
	小川　敏雄	S40
	友田　靖雄	S40
	丹羽　柳三	S42
	赤塚　邦芳	S43
地理	松田　孝弘	S36
	小牧　　壽	S45
	小林　直樹	S50
	豊島　　博	S58
	堀江　秀樹	S58
法経	山本　　譲	S48
	井森　宗吉	S51
	村井　俊之	S56
	坂野　　隆	S58
	丸山　靖生	H3
哲学	近藤　新八	S43
	柘植　卓伸	S52
	国定　幸敏	S53
	桝井奈津子	H 元
	奥村　直也	H5
数学	秋山　　健	S36
	後藤　忠喜	S38
	内田　一之	S43
	宮脇　恭顕	S43
	熊﨑　盛敏	S55
物理	奥田　好紀	S56
	若曽根　隆	S58
	堀部　　昇	S61
	市原　隆行	H2
	竹腰　宣行	H3
化学	柘植　良雄	S50
	森　　社	S51
	小柳　欣也	S51
	服部　公彦	S57
	酒井　　茂	S62
生物	安藤　志郎	S43
	大野　伴和	S52
	井上　好章	S53
	渡辺　寛樹	H9
	細江　達三	H18

大学系		
地学	小栗　敬彦	S42
	山元　敏治	S45
	岩田　将之	S48
	大平　柳一	S49
	水谷　憲司	S55
音楽	斎藤満里子	S44
	棚橋　　弘	S49
	村下　香苗	S50
	三本木陽子	S51
	杉本　公彦	S61
美術	酒井　　賢	S34
	高木　文夫	S35
	長谷川　清	S37
	國枝　俊介	S44
	安江　次郎	S50
体育	中村　博巳	S39
	田口　機子	S40
	石子　裕朗	S45
	岡部好四郎	S52
	谷端　良夫	S55
技職	宮本　英洋	S39
	伏屋　敬介	S46
	高橋　忠明	S48
	吉田　竹虎	S63
	淀川　雅夫	H8
家政	杉山　恵子	S48
	清水　優子	S50
	有尾　陽子	H5
	大畑　恵美	H6
	伊藤　有里	H7
英語	中村　美幸	S40
	古澤　哲男	S42
	高橋　　克	S50
	深尾　雅人	S57
	山下　敦子	S60
教育	加藤　芳憲	S33
	森川　士朗	S34
	古田　重行	S37
	国島　和憲	S43
	中村　正信	S43

師範系		
師範男子	宮川登喜夫	S14
	渡邉　啓市	S16
	西脇　成紀	S20
	田口　謙介	S22
	宮脇　　修	S24
	安藤　俊夫	S25
	松岡　茂喜	S25
師範女子	高井　玉枝	S15
	大前　美子	S16
	田中　良泉	S17
	新井　規子	S18
	所　　家子	S19
	野中　和子	S20
	小倉三千子	S23
	安藤　雅子	S24
	恩田　千束	S25
青年師範	横山　貞二	S18
	安田　嗣朗	S21
	村上　　實	S22
	内田　英夫	S23
	石田　幸彦	S24
	大野　幸子	S25
	服部　真六	S26

理　事

大学系		
国文	曽我部領史	H8
史学	高木　秀之	S31
地理	松田　孝弘	S36
法経	大平　橘夫	S40
哲学	谷本　龍馬	S50
数学	堀部　邦雄	S36
物理	鈴村　雅史	S50
化学	華井　章裕	S46
生物	小椋　郁夫	S49
地学	小島　理生	S39
音楽	棚橋　　弘	S49
美術	石原　通男	S32
体育	奥村　　収	S32
技職	宮本　英洋	S39
家政	野村　令子	S34
英語	中舎美津男	S34
教育	堀井　恕直	S34

師範系		
男師	宮脇　　修	S24
	安藤　俊夫	S25
女師	安藤　雅子	S24
青師	内田　英夫	S23
	石田　幸彦	S24

平成 24 年 6 月 16 日現在

平成 24 年　岐阜大学教育学部同窓会評議会報告

日　　時　平成 24 年 6 月 16 日　13 時 30 分から

場　　所　教育学部本館 7 階　第一会議室

出席者等　評議員・理事・役員 133 名 (内委任状出席 81 名)

会　　議　議事については、議長として後藤忠喜副会長を選出し、以下の事項について審議した。

① 平成 23 年度事業報告

村瀬総務部会長、加藤組織部会長、田口事業部会長、大塚広報副部会長から資料に基づき報告があり、これを承認した。

②平成 23 年度決算報告

村瀬総務部会長から 23 年度の会計決算報告がなされた。

③会計監査報告

野村会計監査から、会計監査の結果、予算の執行管理等適切になされている旨の報告がなされた。
審議の結果、報告の通り 23 年度決算が承認された。

④次期同窓会長推挙委員選出

次期同窓会長選出について、会則に則り会長推挙委員の選出を行うこととした。

投票の結果として、
後藤忠喜 氏　西村覺良 氏　古澤哲男 氏
松田孝弘 氏　宮本英洋 氏　を選出した。

⑤平成 24 年度事業計画

村瀬総務部会長、加藤組織部会長、田口事業部会長、辻広報部会長から各部の事業計画の提案がなされ、これを承認した。

⑧平成 24 年度予算審議

村瀬総務部会長から、24 年度予算についての提案がなされ、これを承認した。

⑨その他

平成 23 年度教育学部同窓会決算報告

●一般会計

＜収入の部＞

科目	決算金額
前年度繰越金	4,506,772
同窓会費	7,620,000
雑収入	1,926
合計	12,128,698

＜支出の部＞

科目	決算金額
運営費	2,473,573
庶務費	1,402,000
事務管理費	396,966
役員会費	421,592
通信費	43,755
渉外費	200,000
交通費	9,260
組織活動費	2,081,820
名簿管理費	1,484,370
名簿作成助成費	81,260
同窓会入会式費	516,190
学部援助費	188,465
事務援助費	68,465
記念庭園管理費	0
教育文化助成費	120,000
事業活動費	1,719,696
成果刊行費	796,425
会議費	678,618
事務費	244,653
広報活動費	2,179,137
印刷費	1,138,201
通信費	1,040,936
次年度繰越金	3,486,007
合計	12,128,698

●事業活動基金

＜収入の部＞

科目	決算金額
繰越金	45,613,130
利息	22,414
合計	45,635,544

＜支出の部＞

科目	決算金額
次年度繰越金	45,635,544
合計	45,635,544

●教育実践事業基金

＜収入の部＞

科目	決算金額
繰越金	4,408,873
利息	733
寄付金	200,000
合計	4,609,606

＜支出の部＞

科目	決算金額
教育実践論文顕彰費	390,000
次年度繰越金	4,219,606
合計	4,609,606

平成 24 年 6 月 16 日評議会で承認済み。

平成 23 年度　教育学部同窓会活動報告

月	総務部会 等	組織部会	事業部会	広報部会
4	6 教育学部在学生ガイダンス 7 入学式 8 教育学部新入生ガイダンス 21 監査	15 役員変更状況確認	● 第26集印刷開始 ● 教育研修課との打合せ ● 臨時部会；数回	
5	11 運営委員会	13 不明者調査依頼 （各学科事務局）	● 第26集発刊 ● 第27集に係る教育研修課への依頼 26 第26集配布作業	
6	1 同窓会連合会 4 理事会・評議会の開催	● 教育学部同窓会住所不明者一覧表の作成決定、着手 ● 新システム導入打合せ	● 教育事務所長会、県小中校長会役員会に協力依頼 ● 県教委へ後援申請	4 第１回部会 ● 担当分担、細部打合せ
7	28 拡大運営委員会	● 各学科同窓会事務局へ不明者調査依頼 ● 新システム導入打合せ	● 県教職員互助会へ助成金申請	● 担当者より会報の原稿の作成依頼
8	11 教育学部同窓生の集い （オープンキャンパス共催事業）	8 学科事務局会 ● 会費未納者再請求		● 執筆者の原稿作成 ● 会報の原稿集め
9		● 名簿データ修正 ● 新システムのオンラインサービス基本契約		● 印刷業者の選定 29 第２回部会（編集会議）
10		● 不明者一覧表の原稿の作成	● 教育事務所訪問 ● 総合教育センター長訪問	● レイアウト、挿絵、配置など ● カレンダー仕様の打合せ 25 第３回部会（編集会議）
11	5 運営委員会	● 不明者一覧表の原稿の校正	● 審査依頼；都市教育長、会長、町村教育長会長、県小中校長会長、同小校長会長、同中校長会長	● 会報の原稿の校正（初校） ● カレンダー作成作業
12		● 不明者一覧表完成 ● 教育学部同窓会住所不明者一覧表配布 ● 新システム導入打合せ		● 会報の原稿の校正（２校） ● 同窓会報第17号発行・発送
1	6 拡大運営委員会	● 会員からの情報により逐次修正	30 事業部会	● カレンダー原稿入稿
2			15 論文概要入手、予備審査、最終審査資料作成	● カレンダー完成
3	25 教育学部同窓会入会式及び卒業生との懇親会	● 卒業生への同窓会員情報変更ハガキの配布	1 第二次審査会 15 最終審査会 ● 教育実践研究入賞論文集 -第27号- 発刊手続き開始	● カレンダーの配布

平成 23 年度教育実践研究助成事業の報告

事業部会長　田口　和男
昭和 43 年度生物地学科（生物）卒業

1. はじめに

平成 23 年度も、各学校の校長先生方の教職員への働きかけのもと、教育実践が論文としてまとめられ、市町村教育委員会、各教育事務所単位で審査をいただいた後、3 月上旬に県総合教育センターにおいて教育研修課のご指導の下、第 2 次審査会を行い、最終審査会（平成 24 年 3 月 15 日）を実施しました。

最終審査会では学識経験者（審議員 2 名）、県教育委員会教育研修課企画監と同課長補佐、6 教育事務所長と各教育事務所の教育支援課長、県都市教育長会長、町村教育長会長及び県小中校長会長と県小学校、中学校長会長が参加され、慎重且つ厳正に審査を行っていただきました。岐阜県の小中学校関係で、これだけのメンバーの方々が一堂に会して審査される会は他に例がないことを報告させていただくとともに、このような礎を創っていただいた岐阜大学教育学部同窓会の先輩の諸氏に心より感謝を申し上げます。

2. 応募状況とその傾向

平成 23 年度の応募状況の詳細は、表 1、表 2 のとおりです。

（表 1）

地区	校種	職種別										年代別					性別		
		校長	教頭	主幹教諭	教諭	養護教諭	栄養教諭	事務職員	講師	ALT等	小計	20代	30代	40代	50代	小計	男性	女性	小計
総計	小	11	8	0	695	18	7	5	18	0	762	299	226	154	83	762	344	418	762
	中	3	3	0	472	8	1	3	11	1	502	217	182	87	16	502	333	169	502
	計	14	11	0	1167	26	8	8	29	1	1264	516	408	241	99	1264	677	587	1264

（表 2）

地区	校種	領域別（論文数）																					総計（編）
		教科											教科以外										
		国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図美	技家	保体	英語	小計	道徳	特別活動	総合学習	外国語活動	学級経営	生徒指導	特別支援	健康安全	管理経営	その他	小計	
総計	小	122	72	145	31	31	31	21	13	40	4	510	32	23	9	16	47	3	51	23	23	24	251	761
	中	55	49	68	47	0	16	11	28	38	66	378	10	10	2	0	30	5	25	9	8	9	108	486
	計	177	121	213	78	31	47	32	41	78	70	888	42	33	11	16	77	8	76	32	31	33	359	1247

3. 審査会の動向

審査の観点は次のようである。

(1) 教育の今日的な課題を踏まえ、解決の方向が明確になっているか。
(2) 教育現場に密着して、目標、計画、指導、評価の一体化が図られているか。
(3) 児童生徒の成長や変容の姿がよく表れているか。
(4) 研究及び実践内容に創造性・妥当性が見られ、説得力のある論文であるか。
(5) 教育実践・研究論文として明確な表記であるか。

これらの観点には 18 の評価の窓があり、例年同様、厳正に審査が行われた。その結果 5 つの観点においてすべて満点であった岐阜市立長良東小学校の澤村秀彦教諭の論文

「個の科学的な見方や考え方が育つ理科学習の創造」
～理科における言語活動の充実を重点として～

が最優秀賞に選ばれた。澤村教諭の論文は昨年度までの研究の成果と課題をふまえて、累積的、発展的に研究実践を進めている。「個の成長を目指す」という目標や「言語活動の充実」

【二次審査会の様子】

という指導の手立て、客観的なデータ分析に基づいた評価が明確である。特に、各学年の学習内容のみならず、問題解決の能力等を含めた科学的な言語活動を系列的に整理することで、教師の指導がより意図をもってなされ、児童の科学的な思考力、表現力が育成されている点が大いに評価できる。特に次の点において優れている。

① 学習指導要領改訂の趣旨をふまえ、基礎的・基本的な内容の確実な定着と、思考力・判断力・表現力の充実を図るための言語活動に着目している。

② 小中学校の指導内容の系統性や児童の発達段階を踏まえ、問題解決力、理科を学ぶ意欲や楽しさを高めるなど、広い視野からの研究実践である。

③ 児童が見通しをもって活動ができるよう計画・指導・評価が一体化された実践である。

④ 個々の児童の変容をきめ細かに分析し、授業改善につなげている。

【最終審査会の様子】

4. 今後にむけて

二次審査会、最終審査会の中で次のことが話題になりました。

①予備審査について

・的確な予備審査をしていただいた県教育委員会の指導主事の方々に感謝している。

②優秀賞候補作品について

・「学習の必然」「子どもたちの仲間の中での存在感」「変容＝変わった実感」の３つの視点を大切にした素晴らしい実践である。

・問題解決を高める授業が展開されている。

・大変きめ細かな実践であるが、きめ細かさは面白さや楽しさを壊してしまう可能性がある。大胆さとのバランスに留意したい。

③言語活動について

・実践論文の多くが言語活動に傾斜した研究がほとんどである。読解力・表現力の弱さから言語活動に焦点をあてるのはよいが、教科の特性や教科で付けるべき力を正面に据えた研究実践が望まれる。教育実践論文の影響力は大きい。「言語活動＝教科指導」という誤解を招かないようにしたい。

④論文の展開について

・論文を読んで読み手が感動するだけでは物足りない。誰かが参考にして実践してみようとするような論述の在り方を工夫したい。（他に伝えようとする論述になるように）

・全国的に通用する価値のある論文ばかりである。学術的に学会で認められる論文にするにはどこにポイントを当てて論述するかによる。視点が分かれば幅広く認知されるであろう。

・「主題設定の理由」「研究目的」「研究仮説」「実践」「成果と課題」のつながりや表現の仕方を改善すると良い。

・「生き生きと」「実感のある」等の言葉は美しいが、どのように検証するかが明確になっていない。これらの言葉がどのような意味や内容を持つのかを明らかにし、説得力のある表現を追求してほしい。

二次審査会や最終審査会の審議の中での審査員の所感は、岐阜大学教育学部同窓会が主催する教育実践研究助成事業に対する評価と今後の期待の表れであると受け取ることができる。昭和58年の岐阜大学統合記念事業として始まったこの事業は、岐阜県の小中学校の教職員の資質と指導力の向上、併せて義務教育の充実や発展に大きな役割を果たしてきた。私達事業部は今後も一層事業内容を充実し、岐阜県の小中学校の教育の充実に寄与すべく教育実践研究助成事業の運営に誠心誠意あたりたい。

最後になりましたが、『教育実践研究入賞論文集ー第27集ー』の刊行に当たり、岐阜県教育委員会をはじめ市町村教育委員会、岐阜県小中学校校長会のご理解とご協力に心より感謝申し上げます。

なお、平成10年度から今日に至るまで、当事業推進のため、財団法人岐阜県教職員互助会から教育文化助成金をいただいていることを追記します。

第 27 回（平成 23 年度）　岐阜県小中学校

教育実践研究論文受賞者一覧

最優秀賞（1編）

岐阜市・長良東小	澤村　秀彦	個の科学的な見方や考え方が育つ理科学習の創造 ～理科における言語活動の充実を重点として～ 〈理科〉

優秀賞（9 編）

岐阜市・柳津小	瀬 良　亜 紀	実感のある思考や表現ができる子どもの育成をめざして ～体験や交流を生かし、学びを連続させる授業の工夫を通して～ 〈総合的な学習〉
岐阜市・加納小	中 村　輝 美	人とかかわる力を育てる活動　～楽しく活動しながら、「話す」、「読む」力を伸ばしていく姿をめざして～ 〈特別支援〉
関ヶ原町・関ヶ原小	青 木　信 幸	自分の考えを、生き生きと表現する子を目指して ～社会的事象の意味を意欲的に追究する社会科学習を通して～ 〈社会〉
揖斐川町・北方小	新 井　美 香	元気いっぱい明るい笑顔が輝く健康教育　～健康に関心をもち自ら体調管理に努める子の育成～ 〈健康安全〉
郡上市・八幡小	村 土　尚	社会的事象を主体的に追究し、仲間とともに伝え合いながら学びを実感できる社会科指導 〈社会〉
白川町・黒川中	武 藤　広 朗	コミュニケーション能力の基礎を確実に養う授業づくり ～指導計画・内容の工夫、個の状況把握に基づいた指導援助、少人数指導を通して～ 〈英語〉
多治見市・北栄小	深 萱　健 次	社会生活の意味を主体的に追究し、自分の考えを高め続けていく子 ～地域に関心をもち、資料をもとに語り合う子が育つ社会科学習～ 〈社会〉
瑞浪市・瑞浪小	久 野　智 治	自分の考えをまとめ、言葉にする力を育てる国語科学習の創造 ～文学的文章教材で感想を書く活動を通して～ 〈国語〉
高山市・北小	清 水　哲 弘	学ぶ意欲を高め、科学的な説明をする思考力・表現力を育成する理科指導 ～授業の終末に具体的な事実を理由にして説明する言語活動の充実を通して～ 〈理科〉

優良賞（40 編）

岐阜市・長良小	猪 又　昌 宏	主体的に判断する力を高め、よりよい自己の生き方を見いだす道徳の時間の在り方 〈道徳〉
岐阜市・加納小	河 路　大 輔	数学的な思考力・表現力及び知識・技能を身に付ける指導の在り方 ～算数的活動における言語活動の充実を図る指導を通して～ 〈算数〉
岐阜市・岐北中	大 畑　祐 司	「中学校・いじめ防止プログラム」　～生徒の自治力と全職員の協働とを原動力にして～ 〈生徒指導〉
羽島市・堀津小	島 戸　秀 人	基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、自分の考えを生き生きと伝え合う算数科学習 〈算数〉
羽島市・堀津小	吉 田　圭 子	人間関係能力を育成する指導の在り方　～教室で気になる子どもたちを核とした学級集団づくり～ 〈学級経営〉
各務原市・八木山小	荒川　千登世	A子の自立の準備のための教育支援のあり方 ～保健室登校A子へのアプローチと校内・家庭・専門機関との連携～ 〈健康安全〉
各務原市・桜丘中	川 瀬　秀 樹	よりよい学校生活づくりをめざし、共に願いを実現させる活動を通して、 自主的、実践的な態度を育てる生徒会指導の在り方 〈特別活動〉
各務原市・蘇原中	後 藤　靖 治	生徒の目がいきいきと輝く伝統的な言語文化の授業の在り方 ～過去と未来をつなぐ生徒が主役の授業づくり～ 〈国語〉
山県市・桜尾小	野 島　友 紀	すすんで歯・口の健康づくりをする子の育成　～「歯みがきしたい」そう思える子に～ 〈健康安全〉
瑞穂市・穂積小	堀　貴 嗣	仲よく助け合い、楽しい学級生活をつくりだす子どもの育成 ～「願い」、「仲良く助け合うこと」、「喜び」を大切にした学級経営の実践を通して～ 〈特別活動〉
本巣市・本巣小	熊 澤　考 枝	国語学習の見通しをもち、主体的に読んだり書いたりすることができる子の育成 ～「楽しい、できた」から「もっとやりたい」へ～ 〈国語〉
岐南町・西小	伊 藤　克 子	食に関する関心を高め、望ましい食生活・食習慣を身に付けることができる児童生徒の育成 ～学校給食を活かした食に関する指導の実践～ 〈食育〉
北方町・北方南小	大 羽　幸 恵	社会的事象の意味を意欲的に追究し、自らの公民的資質の伸長に生かそうとする子の育成 ～進んで資料と関わり、仲間とつながり、考えを広める社会科（「我が国の国土」）学習の創造～ 〈社会〉
輪之内町・福東小	青 山　桂 子	確かな言語能力の育成　～全校で取り組む国語科教育の推進～ 〈国語〉
揖斐川町・谷汲小	西 村　恵 美	自らの考えをもち、伝え合う力を高める児童の育成　～言語能力を高める国語科指導のあり方～ 〈国語〉
大垣市・興文小	杉 野　真 平	言語活動を通して、社会的事象を比較、関連付け、総合しながら考えたことを自分の言葉で表現できる 児童をめざして 〈社会〉
大垣市・西小	傍 島　賢 一	体験的活動を通して、仲間の気持ちを理解し、互いに高め合える集団の育成 ～話し合いを生かした人間関係づくりと創造的活動のあり方～ 〈社会〉
垂井町・表佐小	渡 邊　匡 洋	豊かな心をもち、正しい判断力を身に付け、よりよい生き方を求める子の育成をめざす道徳教育の推進 〈道徳〉
安八町・牧小	白 木　敦 子	ふるさと“牧”を愛する児童の育成　～望ましい勤労観や職業観をはぐくむキャリア教育を通して～ 〈総合学習〉
養基組合・養基小	高 橋　恵 子	自ら進んで学ぶ力を培い、基礎的・基本的な内容の定着を図る算数科学習 〈算数〉
大垣市・中川小	鹿 野　順 子	仲間とともに学び合い、コミュニケーション能力を高めようとする児童が育つ英語活動 ～仲間とともに練り合い、考えやコミュニケーションを深める言語活動の工夫～ 〈外国語活動〉

美濃市・美濃小	鷲見　宏太	課題意識や意欲を連続させながら、主体的に追究する児童の育成 ～実感を伴った理解を図り、科学的な見方や考え方を養う理科学習を通して～ 〈理科〉
関市・瀬尻小	山田　真樹	主体的に自己の力を発揮し、よりよく生きようとする子の育成 ～「自立活動」を中心とした将来を見据えたＡ児・Ｂ児の社会性の育成～ 〈特別支援〉
関市・旭ヶ丘中	児山　耕生	社会的事象を自ら追究する生徒の育成　～わかる社会科の授業を目指して～ 〈社会〉
関市・旭ヶ丘小	上野　暁功	言語力を高め、学び合う授業の創造 〈国語〉
美濃加茂市・太田小	佐藤　亜紀	課題意識をもって、主体的に算数的活動に臨む子の育成 ～仲間に伝え、仲間と共に創り出す喜びを味わう授業をめざして～ 〈算数〉
御嵩町・御嵩小	木村　文紀	自ら考えを表現していく児童の育成 ～第５学年「小数のわり算」少人数指導（じっくりコース）の授業実践を通して～ 〈算数〉
可児市・今渡北小	清水　美奈子	障がいのある児童が、学習上・生活上の困難を主体的に改善・克服するための指導のあり方 ～Ａさんの２年間の自立活動における事例を通して～ 〈特別支援〉
白川町・白川中	藤井　英隆	基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付け、主体的に学ぶ力を育てる数学科教育 ～２・３年生「数と式」領域における新しい授業展開の在り方の追究～ 〈数学〉
中津川市・東小	新田　啓介	運動の楽しさを味わいながら、進んで運動に取り組むことができる児童の育成 ～アルティメットの授業を通して～ 〈体育〉
中津川市・付知中	花田　成文	自ら学び論理的に思考する力を伸ばす図形指導の創造 〈数学〉
瑞浪市・瑞浪小	板橋　俊子	算数の言葉を用いて説明し、伝え合う活動を通して、数学的に見たり考えたりできる児童の育成を目指して 〈算数〉
土岐市・土岐津中	林　茂彦	生活の自立につながる基礎的・基本的な知識及び技能を習得するための指導法の工夫 ～特別支援学級における技術・家庭科の授業を通して～ 〈技術・家庭〉
土岐市・下石小	長瀬　久美子	伝え合うことに喜びを感じられる児童の育成 ～funでinterestingなコミュニケーション活動の工夫を通して～ 〈外国語活動〉
多治見市・南姫小	新宅　武徳	実感を伴った理解を育むための指導計画・指導過程の工夫　～６学年「てこのはたらき」における実践～ 〈理科〉
恵那市・岩邑小	細江　美和	音楽の基礎を身につけ、向上心をもって学習に臨む児童の育成を目指して ～３年生から６年生までの学習の流れを生かしながら～ 〈音楽〉
高山市・松倉中	脇田　裕子	昨日よりも今日、今日よりも明日をよりよく生きようとする生徒の育成 ～不登校・集団不適応生徒への支援体制づくりを通して～ 〈生徒指導〉
下呂市・萩原南中	古田　哲也	仲間の思いや姿のよさに気づき自分を“変身”させる学級づくり ～「話し合う」・「認め合う」を核として～ 〈特別活動〉
高山市・日枝中	下嶋　健児	身近な地域に対する理解と関心を深め、社会に参画していく態度を育てる社会科学習 ～多面的・多角的に事象を追究し、「ものの見方・考え方」を育む学習の創造～ 〈社会〉
高山市・北小	朝田　佳菜絵	社会的事象の意味を意欲的に追究し、自らの生き方を考えようとする子が育つ授業を目指して 〈社会〉

新人賞（20 編）

岐阜市・長良東小	細江　達三	科学的な思考力を育む理科学習の在り方 ～自分の考えを確かなものにしたり再考したりする姿を目指して～ 〈理科〉
山県市・美山小	山口　章太郎	進んで社会生活に関わろうとする子育つ社会科学習　～３年１組の社会科での実践を通して～ 〈社会〉
笠松町・松枝小	勝　愛美	温かい人間関係をはぐくむことのできる学級づくり　～Ａ男の成長を中心として～ 〈学級経営〉
北方町・北方小	森永　玲央	国語に親しみ、自分の考えを生き生きと表現できる児童の育成　～仲間と関わり合う学習活動を通して～ 〈国語〉
大垣市・赤坂小	宮嶋　淳子	感性をはたらかせながら表現できる子の育成 ～鑑賞の能力を高め、学んだことを表現に生かせる子をめざして～ 〈図画工作〉
養老町・広幡小	丹羽　寛史	自ら社会的事象の意味を意欲的に追究し、仲間と共に見方や考え方を高める子の育成 ～歴史の流れをつかみ、人物の生き方から表現できる子をめざして～ 〈社会〉
池田町・温知小	辻　知佳	音楽表現の喜びを味わうことのできる音楽の時間の工夫 ～思いや意図を豊かに表現できる学習活動の在り方～ 〈音楽〉
郡上市・大和第一北小	梶浦　晋平	算数的活動をもとに児童が「分かる」「できる」喜びを味わう授業づくり ～つまづきに対応する指導・援助の工夫を通して～ 〈算数〉
関市・緑ヶ丘中	都竹　竜輔	生徒の主体的な活動を核とした学級経営の在り方 〈学級経営〉
美濃加茂市・古井小	福島　功二	主体的に学び、仲間と共に表現し合い高まり合う喜びを味わう児童を目指して ～社会科における単元構成・資料の読み取り・表現活動を通して～〈社会〉
可児市・広陵中	大蔦　康司	学級の凝集度を高める実践　～学校行事における事前指導と学級通信の活用を通して～ 〈学級経営〉
七宗町・神渕中	日比野　良美	基礎的・基本的な表現の技能の定着を図る音楽指導のあり方　～篠笛の指導を通して～ 〈音楽〉
御嵩町・上之郷中	酒向　奈緒美	充実感や喜びを味わうことのできる生徒の育成 ～個に応じた対応の工夫と仲間との関わり合いのある学級活動の工夫を通して～ 〈学級経営〉
多治見市・養正小	坂井田　耕平	地域への関心を高め、子どもがいきいきと学ぶ歴史学習をめざして 〈社会〉
中津川市・付知北小	山田　雅史	言語活動を充実させ、思考力、判断力、表現力を高める社会科学習の在り方 ～小学校６年社会科「明治の国づくりを進めた人々」の単元指導を中心に～ 〈社会〉
恵那市・長島小	清水　裕樹	共に活動する喜びを実感させ、「居場所」「居がい」を生み出す学級づくり ～小学１年生の発達段階をふまえて～ 〈学級経営〉
土岐市・妻木小	秋田　奈美	自分たちで考え、行動し、よりよい生活を生み出そうとする子どもの育成 ～自治力を育てる学級活動の在り方～ 〈特別活動〉
瑞浪市・瑞浪小	吉田　由梨	社会参加を目指して、仲間とともに仲良く自信をもって取り組む子　～『野点をしよう』の実践を通して～ 〈特別支援〉
飛騨市・古川中	田中　大輔	意欲的に英語を学び、基礎的基本的な力を身に付けた生徒の指導 〈英語〉
高山市・新宮小	中島　瑛介	進んで運動に取り組み仲間とともにできる喜びを味わい、基礎的な動きが身に付く体育授業を目指して 〈体育〉

教育学部の取組

岐阜大学教育学部の 教員養成

岐阜大学教育学部の教員養成プログラムであるACT（アクトプラン）は平成17年度入学生から本格実施されました。「Active Collaboration Teaching」の頭文字をとってACT（アクト）と名付けられたこのプログラムを学んだ卒業生は、平成21年度４月から教壇に立っています。大学での講義内容と各学校での教育実習とを関連させて教師となった卒業生たち、それに続く後輩たちをどうかこれまで以上に指導・育成してくださいますよう、お願いいたします。

１年生　教職トライアル

大学生になってほぼ一か月後、スーツにネクタイと身だしなみを整え、附属小・附属中学校での観察型の実習がスタートします。小学校・中学校での各２回の授業観察と、それをもとに質疑・討論し、教職への思いを高めています。

事前ガイダンス終了後の素朴な願いが、4回の実習を通して教師の卵としての見方・考え方へと大きく変化した例を紹介します。

・生徒との良い雰囲気を作りたい。そして、田舎出身なので人の多さに慣れたい。

→学級担任じゃない教科担任が授業を行うとき、自分のクラスじゃないのに、そのクラスの生徒をよく理解していると思いました。誰がどの班で、どんな役割で、どんな性格なのかなどを元に、挙手・発言を促しているように見えました。

・子どもに接しながら、すぐ異変に気付き対応できる教員に必要な力について学びたい。

→生徒に考えさせる時間を多く取り、生徒同士の意見交流が深まり素晴らしいと思った。掲示物「球技大会の取り組みを通じて」の生徒一人一人の反省に熱意のこもったコメントが書かれておりさすがだと思った。名言もたくさんあり、見ていて胸が熱くなった。

２年生　教職リサーチ

９月に岐阜市内の小学校と中学校で、それぞれ一週間ずつの参加型の実習をさせていただいています。運動会・体育大会などの学校行事を、どんなねらいと計画のもとに、児童生徒の活動を仕組み、気運を高めて成功に導くかなどを学ばせていただいています。また、安全指導、熱中症予防なども目の当たりにしながら、体験を積んでいます。中学校卒業以来、久々の給食を楽しみにしている学生もいましたが、給食指導の緻密さを体験し、指導の奥深さを感じ取っています。

プログラム「ＡＣＴ（アクト）プラン」の紹介

臨床実践講師　大塚　頼明　昭和 43 年度 国語国文科卒業
後藤　信義　昭和 47 年度 英語英文科卒業
高橋　忠明　昭和 48 年度 技術職業学科卒業

３年生　教職プラクティス

以前は４年生で行われていた小学校・中学校でそれぞれ４週間通しての教育実習です。いよいよ、自分が授業者となることへの緊張感と期待感を高めながら築き上げる日々。教師となる道を進むか、どうか決めかねている学生も、目の前の児童生徒に向き合ってベストを尽くすことで進路を決断しようと、真剣に臨んでいます。実習時期は９月に中学校、11月に小学校です。

平成24年度の教職プラクティス実習校

岐阜市内の各実習校。西濃管内では、興文小学校・興文中学校。美濃管内では、美濃小学校・美濃中学校。東濃管内では瑞浪小学校・恵那西中学校。飛騨管内では高山市北小学校・日枝中学校。

上記のほか、各特別支援学校・岐阜市立幼稚園で実習をさせていただいています。

４年生　教職インターン

３年生までの講義や実習を通して、さらに実際に学校で深めたいというテーマ・課題を手にした学生が自らの希望によって行う実習です。実習期間は、12日間以内で60時間以上としています。

平成24年度は、127名の４年生が県内各地の学校で教職インターンの実習をさせていただきました。インターン生の中には、小学校・中学校時代の恩師に出会って、鍛えていただいたり、励ましていただいた者もおり、充実した貴重な学びの機会となっています。また、職員室の教師達の会話の多くが、児童・生徒への緻密で暖かな指導の交流であることに感動しているインターン生たちです。「実習期間を延ばしてほしい。このまま、この学校の職員になれたらいいね。」と声を掛けていただく場合も有り、教員採用試験の合格率も高い傾向があります。

平成24年度、岐阜大学と連携協力を結び、教職インターンを受けいれていただいている教育委員会は、下記の通りです。（出身学生などがいない年度もありますので、必ず毎年インターン生を配置できているわけではありません。）

岐阜市・羽島市・各務原市・山県市・瑞穂市・本巣市・羽島郡二町（笠松町・岐南町）・北方町・大垣市・海津市・垂井町・関ヶ原町・神戸町・関市・美濃市・美濃加茂市・可児市・瑞浪市・高山市。

平成25年度、新たに多治見市、揖斐川町、池田町、大野町にも受け入れていただく予定です。

ACT（アクト）プランに基づいて、県内各地の学校で実習させていただいている学生たちを、厳しく、温かく指導・育成していただいておりますこと、衷心より感謝申し上げます。今後ともお力添えくださいますよう、お願いいたします。

機会を設けて教育学部３階のアクト支援室にお立ち寄りいただければ幸いです。

ＡＣＴ支援室　電話：058-293-2319

E-mail アドレス：　大塚 pt41118335@gifu-u.ac.jp
後藤 pt41129307@gifu-u.ac.jp
高橋 chu0516@gifu-u.ac.jp

新人先生
奮闘記

軸足を 子どもにおいて 一歩ずつ

高山市立新宮小学校　中島　瑛介
平成21年度 保健体育講座卒業

平成22年４月、高山市の新宮小学校で私の教員生活が始まりました。高山という初めての土地、初めての働くという経験…本当に緊張したことを覚えています。そんな私を新宮小学校の先生方や子どもたち、保護者の方々は温かく迎えてくださり、大切なことを学ばせていただきました。

１つ目は、教師としての心構えについてです。１年目に４年生の担任をさせていただきました。教師として学校に赴任してきて、数日後には39人の子どもたちの担任です。授業はどう進めればよいのか。友だち同士のトラブルがあったときには、どう解決したらよいのか。とにかく分からないことの連続でした。そんな中で、私は「こうすればうまくいく」という正解があるのではないかと考え、それを求めて焦っていたように思います。そういう状態から私が抜け出せたきっかけは、次のことでした。

私の学級にはなかなか自分の意見を言えない子がいました。私は、堂々と自分の意見を言える子になってほしいと思い、その子に自信を持たせたいと思いました。まず、その子に「いい意見が書けているよ。」と花丸をつけて認め、一回意見が言えたら「よく言えたね。」とそっと価値づけ、また挙手できたら「よく考えているね！」とほめました。すると、その子は少しずつ自分の意見を言えるようになりました。こうしたことがあってから、私は、教育に「こうすればよい」「こうしなくてはいけない」という正解なんてないんだなと思いました。大切にすべきは「こうすればうまくいく」という方法を求めることではなく、子どもたちに「どんな力をつけたいのか」という願いなのだと考えるようになりました。今、私は、子どもに対する願いを強く持つことが、教師としての心構えで一番大切だと思っています。

２つ目は、教師という仕事のやりがいについてです。２年目に、２年生の担任をさせていただき、専門の体育の研究授業の機会をいただきました。体育教師として、「一人でも運動が好きな子を育てたい。」「基礎的・基本的な動きを身につけさせたい。」と思い、授業の計画をしました。鬼の間をすり抜けていく鬼遊びの授業だったのですが、運動が苦手な子も意欲的に取り組めるように簡単なルールにしました。また、タッチされても何回も挑戦できるルールにしました。いつ走りこめばよいのか分からないで困っている子には、そばについて「今だよ！」と声をかけながら背中をおして援助しました。うまくいった時には「今の上手だよ！」と言って自信を持たせることを心がけました。その子はどんどんすり抜けが上達し、単元が終わるころには「今日は５回成功したよ！新記録だよ！」と笑顔で教えてくれるようになりました。私にとってのやりがいは、自分の願いと子どものがんばりが重なって、「できたよ！」「分かったよ！」と言う子どもの笑顔です。それが、何よりのエネルギーになっています。

これからの子どもたちは変化の激しい時代を生き抜いていかなければなりません。高い壁にぶつかることもあると思いますが、どんな困難にも決してあきらめず、自分で自分を高める努力ができる人になってほしいと思います。そのために、今の自分にできることに精一杯取り組みたいです。

教員をめざす皆さんへ

“特別”じゃない７つの教え
～すべての出会いに感謝しながら～

瑞穂市立穂積中学校　中村　輝美
平成９年度 特殊教育特別専攻科卒業

運動会本番の組立体操。次は、学校でも家でも誰よりも練習してきた苦手なサボテン。笛の合図とともに息を飲み込むその瞬間、「できた！」･･･あのときの誇らしげなＡくん。

国語の漢字テスト。目標の級に何度も挑戦。でもあきらめず受けた次の日、最後の問題に○を付ける私と思わず、「よっしゃー！」･･･あのときのやりとげた満足げなＢくん。

同僚とともに毎日試行錯誤を重ねた教材・教具。楽しく使用しながら、ねらった姿をみせたＣさんに、心の中でガッツポーズ、「やった！」･･･精一杯努力する大切さを学んだ私。

特別支援教育に携わってのべ10年を越えてはいますが、今日までやってこられたのは、子どもたちの笑顔、がんばり、成長に励まされてきたからです。今まで担任した児童・生徒は合わせて19名ですが、たくさんのことを教えられました。それに応えられるよう、子どもたちのように「自分にできる精一杯」のことだけはしたいと思い、実践しています。

前任校の小学校では、生活単元学習を中心に、社会自立に必要な力、中でも「人とかかわる力」を育てることを実践してきました。全校のみんなにも呼びかけて集めた1000を越えるペットボトルの宇宙ステーションづくり、お客さまの先生方に荷物を届けた宅配便屋さん、全校のみんなに届けた年賀状のメール便配達、多くの子たちを招待し、めあてを意識しながら音読したおはなし発表会など･･･。どの活動においても、子どもたちは生き生きと活動し、交流学級の仲間、先生方とのかかわりを広げることができました。

この春、本校に異動となり、校種の違いに戸惑い、これまでの実践が生かせるものなのか、見通しももてませんでした。ですが、そんな不安を払拭してくれたのは、やはり、目の前の子どもたちのがんばり、笑顔でした。１学期末、仲間と力を合わせて育てた花の苗を販売しました。４月当初、いろいろな人に話しかけることを恥ずかしがっていた子どもたちが、お客さまに気持ちよく買っていただきたいと、笑顔で大きな声で応対する姿に、よりよく人とかかわる力を身に付けつつあることを感じました。そして、子どもの実態、校種は違えども、大切にしたいことは変わらないということも実感しました。

①「子ども理解がすべての基盤。活動は、子ども理解に始まり、子ども理解に終わる。」
②「主体的な学びには、活動への『願い』が不可欠。楽しく学び、力を付けたい。」
③「めざす姿、身に付けたい力を明確にすることが、手立て、指導・援助を具体化させる。」
④「社会自立につながるコミュニケーション能力を伸ばすことは、とても重要である。」
⑤「単元設定は産みの苦しみでも、開発の喜びは桁外れ。子ども目線でヒントを探す。」
⑥「子どもの話題を共有でき、ともに考え、切磋琢磨できる同僚の存在は大切である。」
⑦「子どもたちとともに活動を思いっきり楽しみ、ともに歩む教師でありたい！」

子どもたちから学んだこれら７つの教えは、決して“特別”なことではなく、あたりまえのことだけれど、肝に銘じて実践していこうと思っています。それは、特別支援学級でも、通常の学級でも、小学校でも、中学校でも、大切にしていきたい教師の構えであり、教師をめざすみなさんにも、参考にしてもらえればありがたいです。

今まで出会った全ての人たちへの感謝の気持ちを、次に出会う子どもたちへの指導に返していけるよう、これからも「自分にできる精一杯」の努力をしていきたいと思います。

学生の就職状況について

教育指導員　田口　和男
昭和 43 年度 生物地学科（生物）卒業

1. 現役生の８割が教員を目指しています。

	岐阜県受験の現役	愛知・名古屋現役	その他の県の現役	現役受験者総合計	既卒者の岐阜県受験	
					院生	講師等
小学校	94	26	26	146	5	78
中学校	26	6	4	36	9	28
高等学校	15	4	1	20	11	23
特別支援学校	14	1	3	18	2	9
合　計	149	37	34	220	27	138

今年度の教員採用試験一次試験の受験者数は上表の通りです。教育学部４年生の約８割が教員を目指してがんばっています。(昨年は約７割)

岐阜県の教員を希望し、受験したオール岐阜大学生は、現役149名、院生27名、既卒者138名の合計314名です。

2. 学部としてのバックアップ

①「ACTプラン」の充実

特に４年生で実施する教職インターンでは、希望制にもかかわらず今年度は127名の学生が参加しています。参加した学生のモチベーションは高く、そのほとんどが一次試験を通過しています。

②２回行った「集団模擬面接」では就職対策委員会、教学委員会の先生方のほとんどが参加され指導していただきました。また、「小学校実技練習」では関係講座の先生に特にご尽力いただきました。

【英語の実技】

【体育の実技】

3. 一次試験の合格率

岐阜県の教員採用試験の一次試験、二次試験の内容は昨年と比べ大きな変更がありました。一次試験では一般教養がなくなり、教職教養10問、専門科目20問となりました。現役生は全校種平均で８割が合格、既卒者は全校種平均で７割が合格し、二次試験に向かいました。

4. 既卒者の学習会を開催

	参加者	合格
岐阜小	26	22
岐阜中	7	4
岐阜高	7	7
岐阜特	2	2
愛知小	5	5

教育学部後援会の支援を頂き、既卒者を対象に教員採用試験の学習会を４回開催しました。

昨年度試行した、既卒者の学習会を今年度から正式に始めました。

今年度は左表のような参加者と一次合格者でした。講師をやっている既卒者のモチベーションは高く、また多くの既卒者に学生時代と比べて「人」としての成長を感じることができました。

5. 岐阜県を単願で志望する学生

例年他県出身者で岐阜県を単独で志願する学生は２～３名います。しかし、今年は他県出身者でありながら岐阜県を単願する学生が１７名もいました。彼らの多くはその理由を教育実習での先生方の子どもと歩む姿にふれ、子どもたちとともに課題を解決していく岐阜県の授業スタイルに感銘を受けたと語っています。自分の教員人生を岐阜県でスタートしたいと語っています。

学生・既卒者の進路相談

教育学部本館１階の「進路相談室」で田口和男、吉田芙美子の２名が進路相談を行っています。既卒者で教師を目指しておられる方はお気軽にご連絡下さい。

月・火・水・木・金曜日の９：00 ～ 16：00　進路相談室：058-293-2208

退職・転任された教員のご紹介

平成 23 年 3 月 31 日をもって、
退職・転任された教員は次のとおりです。

定年退職	弓 削　　繁	教授	国語
定年退職	小 林　浩 二	教授	社会（地理）
定年退職	利 部　　伸 三	教授	理科（化学）※平成 24 年 4 月 1 日より特任教授
定年退職	高 橋　　弘	教授	理科（生物）
定年退職	水 野　雅 普	教授	美術
定年退職	川岸　與志男	教授	保健体育
定年退職	伊藤　徳一郎	教授	英語
定年退職	山 崎　捨 夫	教授	学校
転任	愛 木　豊 彦	准教授	数学
転任	勝 田　俊 輔	准教授	社会（史学）
転任	佐治　健太郎	准教授	数学

新しく着任された教員のご紹介

平成 24 年 4 月 1 日をもって、
着任された教員は次の通りです。

採用	原 田　敦 史	准教授	国語
採用	上 野　友 也	准教授	社会（法経）
採用	和田出　秀光	助教	数学
採用	佐 藤　正 寿	助教	数学
採用	須 山　知 香	准教授	理科（生物）
採用	山 本　政 幸	准教授	美術
採用	ﾃﾞｲﾋﾞｯﾄﾞ　ﾊﾞｰｶｰ (David Barker)	准教授	英語
採用	松 村　聡 子	准教授	英語
採用	月 村　　敬	准教授	学校

同窓会報発送不要の意思表示をされている方へ

これまでに、「同窓会報の発送を不要」の手続きをされている方へも、今回だけ同窓会報を発送させていただきました。それは、会報 18.19 頁にありますように、新しく導入する会員情報システムの利用をするか・しないかまたは、情報を公開するか・しないかの意思表示をしていただく為です。会報は送付不要でも、会員の交流などにシステムを使っていただけますので何卒、ご了解ください。

「住所不明者一覧表」について

同封の住所不明者一覧表について

今回の調査で４回目になりますが、今年も「住所不明者一覧表」を同封しております。これまでの調査に、大勢の方がご協力くださり、誠にありがとうございました。今年も調査を行うことになりました。

今回の不明者リストは、過去３回の調査でご連絡のなかった方のお名前を掲載しておりません。３年前の調査開始後に住所が不明になった方を掲載いたしました。

一覧表のなかには昨年までの調査時にご連絡をいただいたにもかかわらず、今回の不明者一覧にお名前がある方もみえると思いますが、これは教えていただいた住所に後日会報を郵送した結果、宛先不明で郵便局より戻ってきた場合や、教えていただいた住所が間違っていた場合などがございますので、何卒ご了承ください。

さらに、お手元に届いている方でも住所変更で転送されたり、実家に送られているなどで、届け先を変更されたい方のご連絡もお待ちしております。

住所不明者調査の方法は、「本人様・ご家族及び本人様の了解を得た代理の方から」とさせていただきます。

もし、一覧表の中にあなたがご存知の友人・知人がいらっしゃいましたら、ぜひその方に不明になっていることをお伝えいただき、本人様から、または本人様の了解を得て同窓会事務局へご連絡いただきますようお願いいたします。

会員情報変更届（ハガキ）を同封しました

住所変更・物故のご連絡・同窓会報の発送先変更や会報不要などのご連絡にお使いください。必要事項をご記入の上、左側シールをはがし、用紙中央で折り返して下さい。切手は必要ありませんので、そのままご投函ください。

【連絡方法】　はがき　〒501-1193　岐阜市柳戸１番１　岐阜大学教育学部内　同窓会事務局　宛
電話・ＦＡＸ　電話：058-293-2344（受付時間：平日 10 時～15 時, 休業期間 12/26～1/6）　Fax：058-293-2343
Ｅメール　kyo_doso@gifu-u.ac.jp

注意：同窓会事務局では、会員の個人情報の開示は行っておりませんのでご了承ください。

同窓会組織部からのお知らせ

組織部会長　加藤　直樹
昭和 54 年度 物理化学科（物理）卒業

同窓会組織部会では、会員皆様の名簿をお預かりし、名簿情報を活かした会報の送付や各科等同窓会の活動支援を主な使命としています。会員情報の把握のためには、会員本人からの情報提供にもとづく更新のほか、各科等同窓会との協力による情報更新などの方法を用いてきましたが、確認や修正のための作業が複雑になる等の課題がありました。また、同窓会会員名簿は平成11年以降発刊できておらず、すでに13年を経過しています。これらのため、より正確で迅速な更新を持続的に実施できるようにしていくためには、会員本人による直接的な会員情報の更新や管理へと順次移行していくことが求められるようになりました。

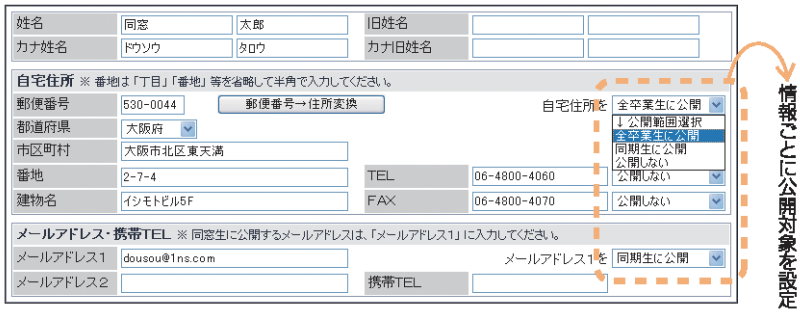
今回、この方向性に基づいて今後の同窓会の会員相互の交流活動を活性化すべく、インターネットを利用した名簿管理システム（ウェブ版同窓会名簿）を整備し、各学科事務局でも担当する名簿を活用できるようなシステムを用意させていただきました。

会員の皆様に限り、ご自宅等のパソコンでこのシステムをご利用いただき、自分の情報を閲覧、修正、公開・非公開等の設定を可能とするとともに、公開設定をされている会員の方の氏名、住所等が閲覧できますので、会員相互の交流にご活用いただければ幸いです。勿論、このシステムを提供する業者との間でセキュリティの確保と利用者のサポートをする契約としていますので、安心してご利用ください。

以下に、このシステムを利用するための手続きを説明していますので、よくお読みいただき、利用しない、または非公開をご希望の場合はご連絡をお願いします。全同窓会員に公開をしてもよい方は、はがきの送付は無用です。

会員専用システムのご紹介

個人情報の自己管理



- ●インターネット上でＩＤとパスワードを入力しログインする。
- ●ご自分の登録情報をチェックできます。
- ●住所変更などの個人情報を自己管理できます。
- ●情報の公開対象も自己設定できます。

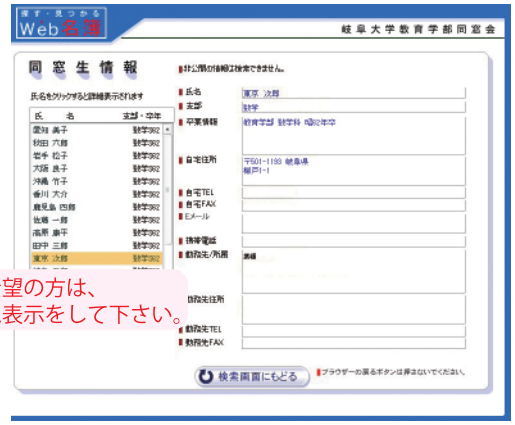
現住所不明者リストの掲載

- ●リアルタイムに現住所不明者リストを掲載します。
- ●参照は会員限定になります。
- ●友人から事務局へ情報提供が随時できます。

ウェブ版同窓会名簿

- ●常に最新のデータが閲覧できます。
- ●同窓生の検索が簡単にできます。
- ●本人が公開許可した情報の閲覧ができます。

安全の仕組み
①テキストデータの取り出しはできません
②閲覧者と被閲覧者の記録を残しています。



住所の非公開をご希望の方は、
同封のハガキで意思表示をして下さい。

新同窓会会員管理システムについて

システム導入にあたり、このシステムでご自分の情報を会員に非公開にする設定やそもそもシステムを利用する意思がなく、ＩＤ/パスワードの発送もしなくて良い方は、今回の同窓会報発送時に同封の「会員情報変更届（裏面）」に必ず意思表示をお願いいたします。原則こちらに意思表示がない場合は、ＩＤ/パスワードの発送と会員へ住所の公開を了解されたものとさせていただきます。

主なサービス内容は、左記のとおりです。

ＩＤ／パスワード配布

平成25年４月より順次、郵送にて配布

サービス開始予定

平成25年４月よりID/パスワード到着時より

ウェブ版同窓会名簿に情報を公開したくない方システムを利用しない方

「会員情報変更届（裏面）」に☑を入れ、必要事項をご記入の上ご返送下さい。
詳しくは次頁の記入例をご覧ください。

【ハガキ記入例】（会員情報変更面）

変更がない場合でも太枠は**必ずご記入下さい。**

現在登録の住所から太枠記載の住所に変更する場合は住所変更に✔を入れて下さい。

会員がお亡くなりになられた場合は✔を入れ物故日がわかる方は記入して下さい。

太枠記載の住所以外に、会報を送付をご希望の方は✔を入れ、送付先住所をご記入下さい。

岐阜大学教育学部同窓会より年１回発行の同窓会報を送付不要の方は✔を入れて下さい。以後、お届を停止させていただきます。

岐阜大学より送られてくるすべての郵便物を送付不要の方は、✔を入れて下さい。以後、お届を停止させていただきます。

【各学科事務局の郵便物について】
各学科事務局（支部）が送る郵便物は、本部事務局では把握していない為、送付を停止されたい方は、発行元をお確かめの上、発送元へご連絡をお願いいたします。

岐阜大学教育学部同窓会員情報　変更届

（※太枠は必ずご記入ください）

学科・講座名 専修等	数学	卒業 修了	S40 年
会員名 カナ 姓	ギダイ 岐大	ハナコ 名 花子	ギフ 卒業時の姓 岐阜
現住所	〒 501-1193 岐阜市柳戸 1-1 （※住所に変更がない場合もご記入下さい）		
TEL：	058-293-2344	e-mail：	kyo_doso@gifu-u.ac.jp

（※この変更届に不明な点があった場合のみご連絡させていただきます）

変更する項目に ☑ して下さい

☑ **住所変更**　太枠に記入する、現住所に変更がある場合は ☑ して下さい。ご記入いただいた現住所を登録させていただきます。

☑ **物故のご連絡**　以後、同窓会報は届かなくなります。

年月日	H20 年 1 月 1 日 逝去

☐ **同窓会報発送先変更**　実家等、現住所以外に同窓会報の発送をご希望の方はご記入下さい。

会報発送先	☐ 実家（姓が異なる場合は様方の欄記入）　☐ その他（　　） 〒（　　-　　） （　　様方）

☐ **同窓会報送付不要**　年１回発行の同窓会報を送付不要の方は、☑ して下さい。以後、お届けを停止させていただきます。

☐ **すべての郵便物不要**　岐阜大学より送られてくるすべての郵便物を送付不要の方は、☑ して下さい。以後、お届けを停止させていただきます。

記入者が本人でない場合　お名前と会員とのご関係をご記入ください。

氏名	岐大太郎	会員との関係	夫

必要事項をご記入の上、ハガキをご返信ください。裏面下段もご確認を

【ハガキ記入例】（裏面下部）

ウェブ版会員名簿に情報を公開したくない方、同支部と同学年に限り公開してもよい方、システムを利用しない方は、意思表示をお願いします。

ウェブ版同窓会名簿に情報を公開したくない方

ウェブ版同窓会名簿に住所の公開をしたくない方は「非公開」に、同支部と同学年の会員に限り公開してもよい方は「同支部同学年にだけ公開」に ☑ を入れ、ご返送下さい。

どちらにも ☑ がない場合は、岐阜大学教育学部同窓会員に対して、ウェブ版同窓会名簿にて住所の公開をさせていただきます。

システムを利用しない方

インターネットを利用し、このシステムを使う予定がない方は、ＩＤ/ パスワードの発送を停止する事が出来ます。☑ を入れ、ご返送下さい。

こちらに ☑ が入っていても、「(1) 会員名簿の情報非公開設定」の意思表示がない場合は、本人がシステムを利用しなくても情報が公開されますので、ご注意ください。

☐非公開　☐同支部同学年にだけ公開　　☐ＩＤ／ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞの発送不要

会員番号は、会報郵送時の封筒の宛名シール右下に記載してあります。（会報誌Ｐ19 参照）

会員番号	E	1	9	6	5	0	1	5	0

ウェブ版会員名簿やこのハガキの書き方の詳細は会報誌Ｐ18・19をご覧ください。

会員番号は、アルファベット１文字と８桁の数字からなる番号です。この会報が入っていました封筒の宛名シール面をご覧ください。封筒を紛失した場合は会員情報変更面（ハガキ太枠）を正確に、ご記入いただければ結構です。

辞 00001
501-1193
岐阜市柳戸 1-1
岐大　花子　様
E19650150

こちらに「辞」が示されている方は、「会報送付辞退」のお申し出があった方で、今回のみ大事なお知らせがあるため会報を送付させていただいております。ご了承ください。次回からは、送付いたしません。

記入例ですので、ご自分の番号をお確かめの上、お書きください。

【この件に関するお問合せ先】　岐阜大学教育学部内　同窓会事務局

電　　話：058-293-2344（受付時間：平日10時～15時, 休業期間 12/26～1/6）
ＦＡＸ：058-293-2343（24時間）　Ｅメール：kyo_doso@gifu-u.ac.jp（24時間）

各学科同窓会の活動

国語（事務局　美濃教育事務所 教育支援課　遠山　健二）

国語科同窓会名簿の作成に取り掛かりましたが、遅々として進んでいないのが現状です。現在把握できている内容を、学年代表の方に見ていただく機会をつくろうと考えています。今後ともよろしくお願いします。

史学（事務局　岐阜大学教育学部附属小学校　平野　孝雄）

[期日]平成24年8月18日(土)
[場所]グランヴェール岐阜
[内容]
①総会
会長挨拶、事業報告・計画、会計報告
②講演「鵜飼と皇室」
講師　岐阜大学教育学部教授　伊東　久之　先生
③懇親会

地理（事務局　海津市立城南中学校　坂口　亨）

(1)第38回同窓会「濃飛の集い」
第44回生（代表　川畑　建一郎）が担当
【期日】平成24年8月4日（土）　13時～16時
【会場】岐阜大学教育学部　102教室
①総会
・開会の言葉
・当番回生あいさつ
・参加者自己紹介
・恩師の先生方の話
・次回４５回生代表の話
・諸連絡
②学習会
講演　「町並みが生きる町づくり」
美濃市観光案内ボランティア　　後藤　正之様
・美濃市での町づくりへの取り組みの事例を紹介していただき、住民の意識が町づくりに向けて、ボランティア精神豊かに活動している現状を理解することができ、美濃という土地の特性なども分かりやすく教えていただくことができた。そして、同様な過疎の問題を抱えている地域の、今後の展望を考える会となった。

(2)次回活動予定　平成25年8月3日（土）
第45回生（代表　八木　宗成）が担当
・来年度から、「濃飛の会」に現役学生も参加するように働きかける予定である。

法経（事務局　羽島市立羽島中学校　丸山　靖生）

学科として、総会等の定期的な活動は行っておりませんが、学年や所属地域ごとに連絡を取り合ったり、教科研究会での実践交流を通して連携を深めたりしています。

哲学（事務局　羽島市立竹鼻小学校　田中　　明）

定期的な活動を実施できておらず、関係の方々にはご迷惑とご心配をおかけしております。
教育学部同窓会の新しい会員管理システムの導入に伴い、哲学科同窓会名簿の作成を進め、会員の皆様へのお知らせやご案内を行うことができるように整備を行っております。名簿整理と併せて、諸活動の計画を進めてまいりますので、ご協力をお願いいたします。

※※※※ 原稿をお待ちしております ※※※※

同窓生のみなさんの近況や活動を同窓会報で紹介させていただきたいと思います。紹介したい記事等をお持ちの方は、原稿や写真等を下記、同窓会事務局へ郵送または Fax または E メールでお送りください。

数学（事務局　岐阜市立長良西小学校　宇野　聡）

(1) 総会
　隔年の開催となっており、本年度は開催なし。
　平成25年６月に開催を計画している。

(2) 研究会
　総会が行われない年度に夏季研究会を行うこととしており、本年度は可茂地区で開催した。

【開催日】　平成24年８月11日（土）
【会　場】　研究会：加茂郡白川町　白川町町民会館
　　懇親会：飛水館
【発表者】　43期　白川町立白川中学校　藤井　英隆　先生
　　49期　岐阜市長良西小学校　近藤　法和　先生
　　53期　岐阜市長良東小学校　勝野　陽介　先生
　　57期　可児市立東可児中学校　山田　恵介　先生
　　57期　養基組合立養基小学校　小暮あゆみ　先生
　　59期　川辺町立川辺東小学校　小谷　公也　先生

　当日は、岐阜大学の岩田惠司名誉教授、山田雅博准教授にも参加していただくことができ、約30名の会員の方と共に充実した研究会を行った。
会の終了後、会員同士の親睦を深めるために懇親会を行った。

平成24年度　わしょう会 夏の親睦会　　飛水館にて　　平成24年8月11日

(3) 同窓会名簿「わしょう」の改訂
　本年度は、同窓会名簿の発行の年度ではないが、年度代表者に連絡をとり、毎年の確認作業を行った。

(4) 今後の活動予定
　○数学科卒業予定者に対して、数学科同窓会「わしょう会」の組織・規約等の説明会を行う。（平成25年２月予定）
　○運営委員会を行い、来年度以降の計画を立案する。（平成25年３月予定）

(5) その他
　○同窓会「わしょう」の作成に関わって
　　住所変更がある場合は、各年度の代表者に連絡をお願いします。
　○平成25年６月に25・26年度の総会を予定しております。
　　是非、多くの会員様にご参会いただきますようお願いします。

物理（事務局　関市立武儀中学校　奥田　好紀）

　学科として、総会等の定期的な活動は行っておりませんが、学年ごとに連絡を取り合い、連携を深めております。
　各学年の情報等、事務局までお知らせいただけるとありがたいです。よろしくお願いします。

化学（事務局　岐阜大学教育学部附属中学校　白木　和雄）

◇同窓会運営
・平成24年３月24日（土）
　運営委員会・利部教授退官記念実行委員会合同会議

・平成24年５月13日（日）
　利部教授退官記念パーティ及び同窓会会報「かんきせん」特別号発行
・平成25年３月下旬
　運営委員会

◇研究会活動
・岐阜かがく教育研究会の活動
　毎月１回ほど、会員５～10名が岐阜大学教育学部附属学校に集まり、指導案の検討や教材開発・実験などを行い、幅広く学び合っている。
平成24年12月末　実践発表会（岐阜大学教育学部附属学校）開催予定
　同　　日　　総会・懇親会（グランヴェール岐山）開催予定

◇現役学生との交流活動
　毎年２月に行われる「大学卒業論文・大学院修士論文発表会」に同窓会員も数名参加し、学問研究に触れたり、教育現場の立場からアドバイスしたりしている。
「送別会（追いコン）」にも参加し、学生と教員・産業界等の同窓生との交流を深めている。

[1]　かんきせん（利部伸三教授ご退官記念特集号）

祝
利部伸三教授ご退官

かんきせん
利部先生ご退官記念特集号
発行
2012年6月30日
岐阜大学教育学部化学科同窓会

定年退官を迎えて
利部　伸三

生物（事務局　岐阜大学教育学部附属中学校　横井　大輔）

(1) 理事会　年４回
　機関誌「岐阜の生物」の編集方針検討、名簿校正作業、機関誌・名簿発送作業、総会打ち合わせなどを行っている。

今年度は
①平成 23 年 12 月 23 日に機関誌「岐阜の生物」No26 の発送作業をおこなった。
②平成 24 年 5 月 29 日に機関誌「岐阜の生物」No27 の編集方針、第 20 回同窓会総会の打ち合わせを行った。
③平成 24 年 7 月 9 日に第 20 回同窓会総会の打ち合わせを行った。
④平成 25 年 1 月に機関誌「岐阜の生物」No27 の発送作業を予定。

(2) 総会（隔年）
　同窓会員の研究実践の交流及び、親睦と最近の教育学部生物科の卒業研究報告会を兼ねて行っている。

日時：平成 24 年 8 月 12 日（日）
場所：長良川観光ホテル石金
総会
・開会の言葉
・会長挨拶
・来賓挨拶　岐阜大学教育学部　三宅崇　様　須山知香　様
・事業報告・事業計画、会計報告・会計予算計画、役員改選
・最近の卒論報告
「サクライソウの生育環境、生活史、及びフェノロジーの解析」
桝岡智恵　様（59 期）
「植物―サビキン―昆虫の相互作用」
本田　薫　様（59 期）
「メダカの雄の繁殖戦略　―産卵時における雄間の優劣―」
渡辺えみ　様（60 期）
・教育実践校研究報告
陽南中学校　石橋信弘　様（46 期）
長良東小学校　細江達三　様（55 期）
長良小学校　福地浩太　様（53 期）
岐大附属中学校　横井大輔　様（53 期）
・講演「身のまわりの自然 ちょっぴりくわしくみてみよう」
岐阜県博物館　学芸員　舩戸　智　様（39 期）
・閉会の言葉

(3) 岐阜大学生物科高橋先生による最終講義および懇親・祝賀会
　昨年度をもって退官された高橋弘教授の最終講義及び、祝賀会を行った。

日時：平成 24 年 2 月 18 日（土）
・卒論・修論発表
・高橋弘教授　最終講義
・祝賀会

(4) 機関誌「岐阜の生物」
　毎年 1 月に発刊、全会員に郵送している。（本年度は第 27 号を発刊の予定）

地学（事務局　岐阜市立長良中学校　武藤　正典）

◇研究会活動
「地学年末研修会」
・毎年、12 月 29 日に開催
・有志による実践発表、研究会、および懇親会

◇同窓会活動
「小井土先生の退官記念パーティー」
・長年、私たちを指導してくださった小井土先生が、今年度で退官されます。卒論発表会終了後、お祝いの記念パーティーを開催します。多数のご参加をお待ちしております。

音楽（事務局　棚橋　弘）

(1) 会報「間」の編集・発行及び会員への送付
(2) 同窓会名簿の作成
(3) 恩師全員を招待しての「総会・懇親会」
(4) その他卒業記念演奏会への支援等

　このうち、会報「間」については、毎年発行していましたが、財政的な理由により、今回から総会開催年度（３年に１回）に発行することになりました。来年度（平成25年）秋の総会に合わせて発行します。
　平成25年は、総会・懇親会開催、会報「間」の発行、本部役員の改正等忙しい１年になりそうです。それにむけ、本年９月、事務局会を開催し、準備にとりかかったところです。期日は平成25年11月17日（日）を予定しています。同窓会員の絆が一層深まるよう活動を強化していきたいと考えています。

美術（事務局　岐阜大学教育学部附属小学校　山本真司）

(1) 美術教育学科同窓会ブログ『ぎふ美術の風』について
　美術教育学科同窓会ブログ『ぎふ美術の風』を開設してから２年が過ぎた。各地区で活躍する同窓会員たちの個展やグループ展、公募展出品等々の情報を中心に写真と文字で紹介しているが、この９月現在で108個の記事アップを数える。尚、ブログへのアクセス数は既に14,000回を越えていて、同窓会員に限らずさまざまな分野や階層の人々が『ぎふ美術の風』を訪れていただいていることが伺われる。
　こうしたアクセス数の増加にともない、自分たちの活動に対する意見や感想を聞きたいという会員の声もあることから、以前より懸案だった「投稿欄」の設置も検討しているところである。
　いずれにしろ、『ぎふ美術の風』が会員たちの創作活動交流の要の場として一層充実したブログにしていきたいと考えている。

(2) 第61回卒業制作展・第６回在校生展のご案内
　平成24年度卒業生・在校生による作品展覧会が行われます。
・期　日：平成25年２月26日（火）～３月３日（日）
・場　所：岐阜県立美術館 一般展示室Ａ・Ｂ

体育（事務局　羽島市立竹鼻小学校　花村　重男）

(1) 総会、還暦祝いの会及び懇親会
［期日］　平成23年６月11日（土）　80人出席
［会場］　ホテルグランヴェール岐山
［総会内容］
① 新入会員（19人）と物　故者（４人）の報告
②22年度会務、事業報告、会計報告及び監査報告
③23年度事業計画及び予算案の承認
④ 大学の近況報告

(2) 事業の内容
①平成23年１月から６月の間に役員会を２回、常任理事会を１回開催して、各種の事業について検討した。
②在学生優秀選手の選出を行い、２月11日に表彰した。
対象者16人にメダル及び表彰状を授与した。（役員２人出席）
③３月24日に新入会員の入会式を開催した。（役員３人出席）

技術・職業（事務局　岐阜大学教育学部附属中学校　佐野　巧）

(1)「学科事務局（支部用）会員管理システム」の利用について
平成24年6月16日（土）岐阜大学総合情報メディアセンター1階C102で、学科事務局会が行われました。そこで、「同窓会員名簿管理システム導入」について説明を受けました。

(2) 技術・職業学科の「同窓会員名簿管理システム」利用について
平成24年７月29日10:00～11:00岐阜大学教育学部附属中学校会議室に「技術・職業学科同窓会」役員の会長１名、副会長２名、岐阜地区理事２名の方々に集まっていただき臨時相談会を開催し、次の点について確認をしました。

①これまで大学側と学科事務局が別々に名簿を持ち、それぞれに更新をしてきたため、どちらか一方にしか変更届をしていない方の情報などが増え、住所不明者を増やす原因にもなっていた。
②Web上でデータを共有することができる。
③名簿やタックシールの印刷など事務局の運営面でのメリットが大きい。
④学科へのシステム運営に伴う費用負担なし。

以上のことから、技術・職業学科として「同窓会員名簿管理システム」を

学科事務局で得られた確実な情報をもとに、会員管理システムの情報を修正し、名簿閲覧、住所録印刷、タックシール印刷などに利用する

こととしました。

(3) 平成25年度の秋に、技術・職業学科の同窓生の方が中心となって活動している岐阜県中学校技術家庭科研究部会が主催する研究大会岐阜県大会が美濃地区で開催される予定です。こちらの方にもご支援・ご指導のほどよろしくお願いいたします。

ご不明な点などがありましたら、同窓会事務局までお問い合わせください。ご理解とご協力をよろしくお願いします。

家政（事務局　坪井春美）

(1) 平成24年度の活動
・会員の現況調査
名簿管理のため、年次代表の方に依頼し、会員の現況調査を行った。

(2) 今後の活動
①「総会及び同窓会」
次回は、平成26年８月に開催を予定している。

②年次代表者会
総会及び同窓会開催に伴い、年次代表者、役員、世話役が集まり、活動の方向や総会の内容について検討する。
平成26年４月頃、予定している。

③同窓会名簿
総会のある年に作成し、希望者に配布予定。

(3) その他
・毎年５月頃に、年次代表者を通じて名簿の確認を行いますので、ご協力をお願いします。

英語（事務局　岐阜大学教育学部附属小学校　尾崎　友美）

(1) 英語英文学科同窓会評議員会
平成24年11月25日（日）
10時より
岐阜大学教育学部附属学校

(2) 英語英文学科同窓会総会
平成25年2月3日（日）
10時より
グランヴェール岐山

詳細は各期評議員から連絡申し上げます。

学校教育（事務局　中村　正信）

平成５年度以降、学校教育（教育学：心理学）、障害児教育の科を合わせて、教育学科同窓会とすると教育学科同窓会規約第１条にうたわれています。
規約の文言は変わっていませんが、この場を借りて、その後の変遷を記させていただきます。

※障害児教育関係は平成19年度から特別支援学校教員養成課程となりました。
・平成21年度入学生より「学校教育講座」と「生涯教育講座」の２つの講座は統合され、新たな「学校教育講座」となりました。
・生涯教育課程は、その教育内容を学校教育講座へ継承発展される形で　統合され、平成22年度入学生をもって廃止となりました。
・平成23年度より、学校教育講座は「心理学コース」と「教職基礎コース」の２コース制となっています。

◇現在の学生定員は、学校教育教員養成課程学校教育（心理学コース）15名、（教職基礎コース）11名、特別支援学校教員養成課程20名となっています。

上記のような変遷はありますが、今後も、教育学科同窓会の規約第２条にありますように、会員相互の親睦を図り、教育学、心理学、治療教育の学識を高め、合わせて、その実践交流を図ることを目的として活動を続けてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

平成 24 年度　各学科同窓会事務局

講座名	学科	所　在　地			担当者	電　話
国語教育	国語	〒501-3756	美濃市生櫛 1612-2	美濃教育事務所　教育支援課	遠山　健二	0575-33-4011
社会科教育	史学	〒500-8482	岐阜市加納大手町 74	岐阜大学教育学部附属小学校	平野　孝雄	058-271-3545
	地理	〒503-0413	海津市南濃町羽沢 1050	海津市立城南中学校	坂口　　亨	0584-55-0039
	法経	〒501-6207	羽島市足近町 7	羽島市立羽島中学校	丸山　靖生	058-392-4433
	哲学	〒501-6241	羽島市竹鼻町 1295	羽島市立竹鼻小学校	田中　　明	058-392-3000
数学教育	数学	〒502-0832	岐阜市千代田町 2 丁目	岐阜市立長良西小学校	宇野　　聡	058-232-5222
理科教育	物理	〒501-3511	関市中之保 5700-5	関市立武儀中学校	奥田　好紀	0575-49-3062
	化学	〒500-8482	岐阜市加納大手町 74	岐阜大学教育学部附属中学校	白木　和雄	058-271-0320
	生物	〒500-8482	岐阜市加納大手町 74	岐阜大学教育学部附属中学校	横井　大輔	058-271-0320
	地学	〒502-0817	岐阜市長良福光 2070	岐阜市立長良中学校	武藤　正典	058-231-7207
音楽教育	音楽				棚橋　　弘	
美術教育	美術	〒500-8482	岐阜市加納大手町 74	岐阜大学教育学部附属小学校	山本　真司	058-271-3545
保健体育	体育	〒501-6241	羽島市竹鼻町 1295	羽島市立竹鼻小学校	花村　重男	058-392-3000
技術教育	技職	〒500-8482	岐阜市加納大手町 74	岐阜大学教育学部附属中学校	佐野　　巧	058-271-0320
家政教育	家政				坪井　春美	
英語教育	英語	〒500-8482	岐阜市加納大手町 74	岐阜大学教育学部附属小学校	尾崎　友美	058-271-3545
学校教育	教育				中村　正信	

●編集後記●

メタセコイアの木のある図書館

昭和 58 年に柳戸に統合移転する前は、現在の長良公園、東長良中学校、長良高校の体育館やテニスコートのあたりに教育学部と旧教養部がありました。教育学部の前身は学芸学部や師範学校になります。金華山と対面する位置にあった「新しい図書館とメタセコイア」は、長良の教育学部の象徴でした。周辺に生協や体育館があったことから学生の頃の映像がよみがえってきます。そうとはいっても、統合の際に荷物を運んだ世代も 50 代になり、長良キャンパスを知らない同窓生の方々も多くなりました。おりしも、移転後 30 年程たったことから柳戸の校舎もいたみが目立つようになり、工学部から改修工事が始まっています。

先日、長良東小学校を訪問する機会があり、メタセコイア付近の風景を見ながら教育学部があった頃を思い出していました。その際に、地理学科の同窓会の役員でもある小林直樹校長先生から『私の地理教育－小林浩二教授ご退官によせて－』と題する立派な本を紹介いただきました。その本には、地理の卒業生の方々が教育現場において実践された成果が掲載されており、子どもたちの学びの姿が伝わってきます。実は、長年にわたり地理の教育研究に取り組んでこられた小林浩二先生は、退職の半年後にご病気のため他界されました。この本の発刊時には体調をくずされており、小林浩二先生からのメッセージのような気がします。筆者は学生のときに「メタセコイアのある図書館」の講義室で小林浩二先生の講義を受講したこともあって、地理のフィールドワークにもとづく研究内容と教育現場の授業をまとめられた本の内容とが重なりました。「地理好きの児童・生徒・学生を育てる」という教育研究の姿勢と同窓生の皆様の実践成果を微力ながら引き継いでいきたいと考えています。

（広報部会　辻　泰秀）

岐阜大学同窓会報
第 18 号

発行日 / 平成 24 年 12 月発行
発行者 / 江端　雅司
発行所 / 岐阜大学教育学部同窓会

〒 501-1193　岐阜市柳戸 1 番 1
岐阜大学教育学部内　同窓会事務局
TEL. 058-293-2344（平日 10 時～ 15 時，休業期間 12/26 ～ 1/6）
FAX. 058-293-2343（24 時間）

岐阜大学教育学部同窓会ホームページ：http://www.ed.gifu-u.ac.jp/~dousoukai/　E-mail：kyo_doso@gifu-u.ac.jp